



県立久米島高等学校

キーワード(「3軸・6視点」等)

・個人の裁量(ゆとり)ある時間の確保

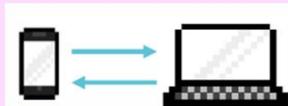
「私たちのピース・リスト2023」との関連

No.26 校務DX(校務支援システムの活用等)の推進
・校務DXを推進し、業務の効率化を図る必要がある。

入室許可書発行のICT化

1 趣旨 入室許可書発行のICT化を図り、遅刻指導関連の業務負担軽減を図る

2 場所 生徒用玄関、本校職員室入口



【手順】

- ①朝(8:45～9:00頃)、生徒支援部がQRコード(持ち運び可能)を生徒用玄関に持って行きます。
- ②遅刻した生徒はQRコードをスマホ等で読み取り、Formsで学年、クラス、番号、氏名、遅刻した理由、届出の有無等を入力して送信します。
- ③Power Automate機能を使い、瞬時に職員Teams内で職員間で共有します。

【メリット】:月ごとの集計がエクセルで出せるため、集計作業が楽

【デメリット】:名前をひらがなや漢字で書く生徒がいる場合、集計が困難 →※解決策:選択肢で統一する。

◆ポイント 遅刻生の入室許可書発行の手続きが不要。
月ごとの遅刻回数を自動集計することができる。
遅刻指導の負担軽減につながる！



朝の遅刻指導の後は、職員室入口で教頭が対応しています(教頭不在時は職員室在室の教員が対応)。



遅刻届出表です

【職員の感想】

・生徒支援部の遅刻係としては、集計作業が簡素化されたため、業務負担軽減につながり、ゆとりある時間の確保ができました。